

**13年間で1,200名超え！  
「バイリンガル教育」に  
携わった経験をまとめた**

**キッズアイランド式  
「バイリンガル教育のコツ」**

---



# はじめに

この度は、『キッズアイランド式バイリンガル教育のコツ』を手にとっていただき誠にありがとうございます。

このレポートでは、私、堺谷がこれまで13年間で1,300人を超える子供達のバイリンガル教育に携わった経験をまとめた教育レポートです。

「バイリンガル」の定義付けから、目標設定や学習法、そしてご家庭で出来るバイリンガル教育について書かせて頂きました。

ぜひ今回のレポートを読んで頂き、そして、お子様と楽しみながらバイリンガル教育に取り組んで頂ければと思います。

そして、このレポートがあなたのバイリンガル教育に役立つことになれば、私としても非常に嬉しいです。

どうぞよろしく申し上げます。

キッズアイランド代表 堺谷武志（さかいたに・たけし）

# ～目次～

## はじめに：ご挨拶

### その1：バイリンガルとは？（p4～）

- ・バイリンガルの定義
- ・バイリンガルになるメリットとは？
- ・バイリンガルにもレベルや程度がある
- ・レベルや程度の考え方
- ・バイリンガルのレベルの目標

### その2：子供はどうやって「言語」を習得するのか？（p8～）

- ・子供の母語（＝日本語）習得方法
- ・英語をどのように学ばせればいいのか？
- ・子供の発達段階に応じた目標の持ち方や進め方
- ・参考：大人にとって英語はなぜ難しいのか？
- ・日本語とはまったく異なる言語体系「英語」
- ・心理的な壁

### その3：具体的な学習法について（p14～）

- ・バイリンガル教育3つの方法
- ・発達段階に応じた取り組み方
- ・具体的な目標例（4歳まで）

### その4：ご家庭で取り組める「バイリンガル教育」（p18～）

- ・ご家庭で取り組めること
- ・教材選び（お勧め）
- ・最後に・・・

## その1：「バイリンガル」とは？

改めましてこんにちは、キッズアイランド代表の堺谷（さかいたに）です。

私の自己紹介は最後にして、長く教育業界に従事していると、ありがたいことに多くのお母様、お父様から多くの質問を受けます。

その中でも「うちの子、バイリンガルにさせたいんです！」という質問を一番多く頂きます。

こういう教育熱心な保護者様は、教育に携わる私としても非常に嬉しいのですが、まず『バイリンガルとは何か？』について理解し、そして「どのバイリンガルレベル（目標）」に向かって自分の子供を育てるのか？によって日頃のアプローチも変わってくると私は思います。

そこで、**「その1」**では、「バイリンガルとは？」という定義から、「バイリンガルレベルの違い」について述べ、あなたがバイリンガル教育を行う上で、目標設定をしやすい様にしたいと思います。

### 【バイリンガルの定義】

「バイリンガル」が一体何をさすかの定義づけはとても難しいのですが、ここでは**「二ヶ国語をきちんと使い分けて、コミュニケーションができる人」**と定義します。

ですので、バイリンガルとは、一般的に考えられているような、帰国子女やインターナショナルスクール出身者だけの話ではなく、第二外国語での一定以上のコミュニケーション力を持つ人を指します。

よって、日本をベースに過ごしていても、日本語とプラス何か他の言語（ここでは「英語」）をきちんと使い分けてコミュニケーションが出来れば、「バイリンガル」であるということになります。

## 【バイリンガルになるメリットとは？】

本題に入る前に、「バイリンガルになるメリット」について先に考えたいと思います。あなたはどんなメリットがあると思いますか？

単に英会話ができるといった技術の話を超えて、ツールとして使いこなすことで世界や人とのつながりが広がっていくという点が醍醐味だと私は思っています。

### 《バイリンガルになる主なメリット》

- ・ 英語（＝世界の共通語）を学ぶことで、世界や知識が広がる
- ・ 異なる人や文化に触れることで人生が豊かになる
- ・ ものごとを相対化する能力が高まる、など

## 【バイリンガルにもレベルや程度がある】

ここからが大切な話です。一概にバイリンガルと言っても、レベルや程度があります。

一見、いわゆるペラペラに話しをしているように見える人でも、語学における4つの全ての技能（聞く・話す・読む・書く）において2言語とも完璧なレベルに達しているバイリンガルはさほど多くはありません。

ここでは主な分類について整理しておきますが、分類自体はさほど重要なことではなく、まずは「バイリンガルにもレベルがある」ということを理解しておいてください。

## 【レベルや程度の方考え方】

では、「バイリンガルにもレベルがある」と理解して頂いたと思いますので、次にどの様にそのレベルを考えていくか？を詳しく「2つの考え方」から見ていきます。

### 《各言語の発達段階に応じたレベル》

2言語のうち、それぞれの言語の”発達レベル”によって分類する方法です。

2言語とも年齢相応に発達している、1言語は年齢相応に発達しているが、もう1言語は使えるが年齢相応レベルまでは届かない、といった分類です。

最も問題になるのは、”2言語とも年齢相応に発達していない”という場合で、例えば、バイリンガル教育を目指して、英語漬けにしようと思ったけど、結局、英語も日本もどっちつかずになってしまったというケースです。

それを避けるためには、片方からで良いので、目指す言語の発達レベルをまずは達成させるなど、発達レベルの意識を持つことが大切です。

### 《4つの技能毎におけるレベル》

次に、より細かく「技能」毎に発達レベルが異なる場合の分類です。

たとえば、聴けるが話せない、話せるが書けない、全てできる、などです（例えば、日系二世などで、両親の話は日本語で聴くが、返答するのは英語といった例もあります）

あと、少し切り口は変わりますが、今や英語は世界の共通語です。

ですので「色々な英語」がある（例えばアジア諸国の人たちが話す英語など）、あるいは時代の進展と共に変化がある（例えば、ホームページやEメール上で使う英語など）ということも理解していただき、バイリンガルのイメージを固定化しないでいただきたいと思います。

ここでのポイントは、英語4技能それぞれをどのレベルに持っていくかに着目するという事です。

## 【バイリンガルのレベルの目標】

したがって、一概にバイリンガルと言ってもどのレベルの獲得を目指すかで、取り組み方も変わってきます。ですから目指すレベルの目標を持つことが大切です。

例えば、海外旅行で苦労しない、職業で活用できる、論文をかけるレベルなどです。子供の場合、漠然とでも親の希望としての将来目標をもつことになります。

たとえば、日本の教育を受けるという前提なら、次のような目標はいかがでしょうか。

**「日本人としての軸（言語・文化）を持ちながら、第二外国語としての英語で相応に高度なコミュニケーションすることができ、それをEnjoyできる」**

です。

さらに具体的なイメージを持つためには、あくまで現時点での親としての希望としてですが、将来本人が望めば「**大学相当の教育で海外留学ができるレベル**」というのもひとつの目標になりえると思います。

あるいは、ネイティブレベルの英語を（日本の教育に優先して）目指すのであれば、インターナショナルスクールへの通学や早い時点での長期海外留学など異なる学習環境（ひいては社会環境）を整える必要があります（**当然ながら、逆に日本語教育をどうするかを考える必要はあります**）

ですので、ここで一度、「あなたのお子様のバイリンガルレベルはどこを目標にするのか？」について言語化出来るレベルまで考えてみてください。

それが出来ると、お子様への今後のアプローチが少し明確化するでしょう。

## その2：子供はどうやって「言語」を習得するのか？

「その1」を読んで、お子様へのバイリンガル教育の「目標設定」がある程度イメージ出来たと思います。

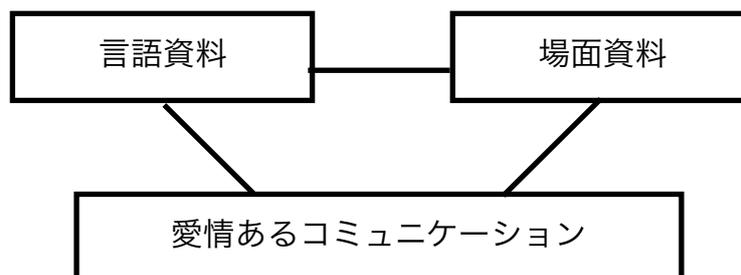
**「その2」**では、「子供の言語習得プロセス」についてお話しします。そして、そのプロセスを元に、「子供のバイリンガル教育における抑えるべきポイント」について解説します。

そのポイントを知っておくと、むやみやたらに、本を読ませたり、音楽を聴かせたりするのではなく、ちゃんとした言語習得プロセスに従ったアプローチでバイリンガル教育を行うことができます。きっと、ご家庭でも楽しみながらお子様の成長を感じられると思います。

### 【子供の母語（＝日本語）習得方法】

子供はいったいどうやって言葉を覚えていくのでしょうか？

まずは、母語習得の簡単な考え方を紹介します。乳幼児は、以下の3つをベースに言語（母語）を習得していくとされています。



ここで大切なのは、**まずコミュニケーションがベースにあり、言語はコミュニケーションのツールとして介在する**ということです。

実際にコミュニケーションの一定の部分は非言語コミュニケーション（行動、しぐさ、表情など）によるものですし、乳幼児の場合は言葉が出る前はこれが全てです。

その上で、言語資料（子供に語りかける言葉）、場面資料（様々な状況とそこで交わされる会話など）を大量に吸収することで、ツールとしての「言葉（言語）」が習得されていくのです。

## 【英語をどのように学ばせればいいのか？】

では、上記のような点も踏まえ、子供のバイリンガル教育を実際に進めるには、以下の3つのポイントを押さえていくことが必要となってきます。

- ①幼少期にはじめる（聴く力が強い、心に壁がない）
- ②一定量のインプットを行う
- ③愛情ある生きたコミュニケーションの場・機会を確保する

です



## 【子供の発達段階に応じた目標の持ち方や進め方】

とは言うものの、実際の目標の持ち方や進め方は、「幼少期」と「それ以降」に分けて考えた方が良いと私は考えます。

と言うのが、例えば「②一定量のインプット」で考えると、「英語をインプットさせないと！」と意気込んでしまい、子供への愛情や過度な期待からか「過度なインプット」になってしまうと「英語嫌いになる」原因にもなりかねないからです。

お子様が英語嫌いになってしまっは、努力も水の泡です。そうならないためにも「適度な期待」と「バランス感」と「細く長く楽しく」がキーワードになると私は感じています。

まず、幼少期においては「聴く力」「楽しむ」ことを意識して、以下の2つの方法で進めるとよいでしょう。

### 《幼少期》

#### ①母語を習得するのと同じ方法

幼児の言語習得能力の高さを活用し、母語を習得するプロセスと同様の方法で習得していきます。

すなわち、多くの言語資料・状況資料を与え（聞く）、コミュニケーション（遊ぶ）する環境を整備します。

#### ②第二外国語を学ぶ方法（上記プラスアルファの取り組み）

同時に、スクールや教材を活用して、第二外国語を学ぶ際に効率的な方法も取り入れます。

例えば、音楽やダンス、フラッシュカード、運動、ゲームなどは、子供が楽しみながら英語の触れるのに適した方法です。

できるだけ「1) 触れる機会を増やすこと」「2) 継続させること」により、「外国人とのコミュニケーションを楽しむ」「英語独特のリズム・発音に慣れておく」「簡単な挨拶や言葉を理解し、いくつかは使えるようにする」ことを当面の目標におくといいでしょう。

### 《それ以降》

幼児期を過ぎた後は、長期的な視点を持ち、20歳くらいに大きな成果が得ることを意識して学んでいきましょう。

相当の英語環境を準備しても、社会、教育、家庭環境が日本語である場合には英語に触れる絶対量に制約があるため、いきなりネイティブ・スピーカーのようになることは困難です。

また、子供は「覚えやすく、忘れやすい」ため、長く続けていくことがポイントになります。

高度な英語力の習得には、最終的には本人の強い動機（「留学したい」「原書を読みたい」「映画を字幕なしで見たい」など）を元に多くの努力を要することになります。

現実問題として、大学入学までには、受験や他のやりたいことなどで、継続的に英語ばかりをやることは難しいと思いますが、本人が本気になった時に「英語を幼少期から続けてきたこと」が大きな下支えとなります（その時、子供から大きく感謝されることでしょう）

- ・適度な期待は必要（但し、過度の期待は逆効果）
- ・あせらない（話す・読む・書く力はある程度まで後からつけることも可能）
- ・聴く力も一定レベルまでは可能（聴く力については幼少期に獲得して維持する方がメリット大。音楽や楽器に類似）
- ・話す、読む、書くは年齢に応じた対応を行う
- ・高度な習得には、最終的には本人の強いモチベーションが必要

親の関心や環境設定は、スポーツ選手や音楽家などの例を引き合いに出すまでもなく、子供のあこがれや価値観に大きく影響してきます。

まさにキーワードである「適度な期待」と「バランス感」と「細く長く楽しむ」を意識してもらえればと思います。

## 【参考：大人にとって英語はなぜ難しいのか？】

少し話はズレますが、なぜ大部分の日本人の大人にとって、英語は難しいと感じるのでしょうか？

学校の英語教育が未整備によるものもあるでしょう。

多くの日本人の大人は「中高大で勉強したのに、英語が話せない。」という不満を持っていて、英語を難しいと感じていると思います。

## 【日本語とはまったく異なる言語体系「英語」】

ただ、私が思うのが、根本的な要因としてやはり英語はそもそもが「**日本語とはまったく異なる言語体系**」である点です。よく言われるのが次のような違いです。

- ・文法：語順などがまったく異なる
- ・発音：音の数と種類の違い（RとL、OとU、SとShなどが代表）  
（実際には、喉、肺、腹の使い方も異なります）
- ・文字：表音文字と表意文字（漢字）の違い
- ・リズム：積み上げ式と詰め込み式（リエゾンも聞き取りが大変）
- ・スピード：一般に英語の方が単位時間当たりの情報量が多い

その根本的な違いによって「文法をつい気にしてしまう」「文字を浮かべないと発音ができない」「速すぎて聴き取れない」などは多くの日本人にとって、仕方がないことだとも言えます。

これは、「知識」としての英語は知っているが、「ツール」として使えるところまで到っていない、ということです。

言葉が「ツール」である以上、他のツール（道具）と同様に「使ってみて慣れること」が大切になります（自転車の乗り方と同じようなものです）

## 【心理的な壁】

あと、「日本人の大人あるある」なのですが、実際に英語を使う際に、言語体系の違いといった技術論の前に、異なる人種とのコミュニケーションの際に生じる「心理的な壁」のようなものを感じる傾向にあります。

あなたは同じような経験はないでしょうか？

人は自分の知らないこと、それまで蓄えてきた知識や経験と違うこと、に出会うと反射的に違和感を覚え不安になってしまいます。

これは知らない人、言葉、カルチャーの違いに出くわした場合でも同じです（逆に言いますと、心理的な壁のようなものを突破して「違いを理解し、楽しむ」ということができるようになるというのがバイリンガルになる醍醐味とも言えます）

また、その「心理的な壁」は、幼い頃はまだ出来にくいので、その点においても、やはり英語は幼少期に始める方が有利ですね。

## その3：具体的な学習法について

「その1」で「バイリンガル教育の定義や目標設定の考え方」がわかり、その2で「バイリンガル教育を進める3つのポイント」がご理解できたと思います。

その「3つのポイント」だけおさらいしておくと、

- ①幼少期にはじめる（聴く力が強い、心に壁がない）
- ②一定量のインプットを行う
- ③愛情ある生きたコミュニケーションの場・機会を確保する

でした。

「その3」では、バイリンガル教育を行う上での「具体的な学習法」についてお話ししたいと思います。

### 【バイリンガル教育3つの方法】

これまで長年、バイリンガル教育に携わってきた中で、バイリンガル教育を成功させるためにはこの「**3つの方法の組み合わせ**」がポイントだと私は感じています。

この方法を子供の時期に合わせて、内容を変えていくというのが基本となります。

その「3つの方法」というのが、

- ①毎日のインプット（→家庭でのCD、絵本読み聞かせ、DVD、語りかけ等）
- ②定期的な生のコミュニケーション（→スクール、語りかけ等）
- ③集中的な実体験（→留学、海外駐在等）

です。

## 【発達段階に応じた取り組み方】

次に発達段階に応じた取り組み方について、「**子供の時期**」と、それを行う「**目的**」と共に解説させていただきます。

### 《4歳まで》

#### 【①インプット】

音楽、絵本、映像を親と一緒に楽しむ

**（目的：英語固有の音とリズムをインプットするため）**

#### 【②コミュニケーション】

英語スクールの活用など

**（目的：インプットと生のコミュニケーション）**

#### 【③集中的な実体験】

海外旅行や親子留学

**（目的：違う国や環境を楽しむため）**

### 《幼稚園》

#### 【①インプット】

音楽、絵本、映像を親と一緒に楽しむ（レベルを上げる）

文字に親しむ

**（目的：英語固有の音とリズムをインプットするため）**

#### 【②コミュニケーション】

英語スクールの活用など

**（目的：生のコミュニケーションとフォニックス（読）着手のため）**

#### 【③集中的な実体験】

海外旅行や親子留学

**（目的：違う国や環境を楽しむため）**

## 《小学生》

### 【①インプット】

学習用教材や映画や音楽

(目的：「聴く力」の維持、そして読み書きも開始し知識を定着を進める。  
ただし楽しみながらがベース)

### 【②コミュニケーション】

アフタースクール

(目的：生のコミュニケーション)

### 【③集中的な実体験】

海外旅行や短期留学

(目的：違う国や環境を楽しむため)

## 《中学・高校・大学》

### 【①インプット】

学校の勉強の開始。その他、学習用教材、映画、音楽

(目的：文法の本格的な定着のため)

### 【②コミュニケーション】

学校の英語学習、英会話スクールなど

(目的：生のコミュニケーション)

### 【③集中的な実体験】

一年間の留学

(目的：知識や体験の高度化。ただし、本人の希望次第)

以上の流れを基本に進めていきます。何度も言いますが、バイリンガル教育は「適度な期待」と「バランス感」と「細く長く楽しく」がキーワードです。

躍起にならずに子の成長を見守って頂けると良いかと思えます。(親のプレッシャーは子も自然と感じていますので)

## 【具体的な目標例（４歳まで）】

幼児期に英語を初めたお子さんの当面の目標としては、以下を目安にするといいと思います。もちろん、目指すレベルによって異なりますし、個人差はありますのであくまでも参考程度にしてください。

### 《聴く》

歌を覚える（英語全体のリズムになれる）～10曲口ずさむ

単語を覚える（音と言葉）～200語以上が目安

簡単な日常表現を（話せなくても）理解する

### 《話す》

ネイティブのいったことを繰り返す、挨拶ができる

Yes/Noで返せる、簡単な表現ができる

### 《読む》

フォニックスの基礎着手（幼稚園）

（→正しい発音の定着にも効果があります）



## その4：ご家庭で取り組める「バイリンガル教育」

「その3」で、バイリンガル教育を行う上で、具体的な学習法についてお話ししました。

上記にあげたことの中にも、ご家庭でも取り組めることが多くあります。英語に限らず、リラックスした雰囲気ですることによって子供は興味を持って吸収していきます。

3つの方法として「毎日のインプット」「定期的な生のコミュニケーション」「集中的な実体験」について説明しました。

その中でも、英語のインプット量確保の最善策は、家庭で毎日楽しみながら取り組むことです。

世の中には優れた市販教材がたくさんありますので、ご家庭で子供と一緒に楽しんであげてください。

**「その4」では、ご家庭で取り組めるバイリンガル教育**についてお話しし、オススメな教材もご紹介したいと思います。

### 【ご家庭で取り組めること】

ご家庭でバイリンガル教育を進める上で以下の「**3つのポイント**」が重要になってきます。ぜひ実践して頂けると良いかと思えます。

#### 《①親と一緒に英語を楽しむ》

親が楽しんでいることに子供は興味を持ちます。強要するのではなく一緒に英語を楽しんであげてください。

発音は特に気にする必要はありません。また、歌詞カードで覚えて一緒に歌を口ずさむと、親の方も発音がよくなるというおまけがついてきます。

## 《②毎日こまめに英語に親しむ》

理想は子供も親も楽しめる教材で、毎日30分で良いので行うことです（これが一番難しいのですが。。）

一般に、2000～3000時間の壁と言って、一定のインプット量を確保する必要があります。

幼児の頃はさらに密度が濃いと思いますので、毎日15～30分空き時間を活用してインプットされることをお勧めします（毎日の生活に組み込む、移動中の自動車で聞くなど）

## 《③本が好きな子に育てる（母語も含め、沢山の読み聞かせをする）》

英語と直接の観点はずれますが、本を読むという行為は、「集中して聞く」「見る」「考える」「推定する」というプロセスからなっていて、それらの力を鍛えます。

これは、実際の外国語でのコミュニケーションに必要な要素ばかりで、英語でこの読み聞かせができると非常に効果があります。

発音が気になる方はCD付の絵本を活用するといいでしょう。



## 【教材選び（お勧め）】

ご家庭で取り組んでもらいたいバイリンガル教育についてお話しましたが、教材選びに迷う方も多いと思います。

**教材は、はじめは高価なものでもなくても大丈夫です。**

気合を入れて、高額の設定物を購入してしまう方もいらっしゃいますが、慎重にご検討されたほうがいいでしょう。

優れた教材でも、自分の子供が興味を示すかわかりませんし、子供はすぐに大きくなりますので、その間もずっと興味を示し続けるとは限りません（その結果、インターネットのオークションでも数多くの出品が見られているのだと思います）。

バラ買いできるものを複数試して（バラ買いができないものも多いですが。。）、**自分の子供が実際に気に入ったものを徐々にそろえていくほうが賢明だと思います。**

以下に、個人的にお勧め出来る教材を書かせて頂きます。とは言うもののお子さんが興味を示す（示し続けてくれるか）が、続けるコツになりますので、あくまで参考程度にお願いします。

### 《音楽CD》

KIMBO社、Wee Sing、  
Let's Sing Together、Matsuka フォニックス

### 《CD付絵本》

シリーズ：CTP Learn to Read、Oxford Reading Tree  
単体もの：保護者の方の感性で選んでいただければ結構です

## 《DVD》

学習用：ディズニー、グースキー、マザーグース英語のうた、など  
観賞用：Cartoon、子供向けミュージカル映画、など

## 《語りかけ》

ヘンリーおじさんの英語で子育てができる、など

## 【最後に・・・】

ここまで「キッズアイランド式バイリンガル教育のコツ」をお読み頂きありがとうございます。

なかなか濃い内容でもしかしたら難しいと感じる部分もあったかもしれませんが、ぜひお子さんのバイリンガル教育にプラスになると嬉しいです。

色々と語らせて頂きましたが、一言でまとめると「**細く、長く、楽しく**」を**意識して取り組んでほしい**ということです。

特に「**長く**」や「**楽しく**」は**重要**です。

お恥ずかしながら、私ごとですが、一時期娘に対し英語を少し押しつけてしまったようです。

「英語、きれい」と抵抗されました。

親としては「よかれ」と思ってやっているのですが、親の方が熱が入りすぎてしまったのだと思います。

少し間が空いたものの、やはり2歳からやっていた子は「リスニング力」が強く、その辺りは小学校高学年から始めた私などはうらやましく思っています。

でも、途中でやめたら、ピアノなんかと同じで、そこで終わってしまいます。

ぜひ、細くでもいいので、長くと楽しくを意識して続けられるようなサポートをお願いします。

極論すると、リスニング力さえあれば、あとは大きくなってからでも本人次第でなんとでもなります。

音楽の音感と同じで、英語のリスニング力だけは小さいころからつけておいてあげることをお勧めします。

そのためには「**細く、長く、楽しく**」。これは魔法の呪文です。

お母様、お父様、もし習っているのに英語が伸びてないじゃないか、とか、もっとやらせなきゃと思ったたら、深呼吸をして、「**細く、長く、楽しく**」と唱えて見てください。

大人になってからの英語の勉強は修行みたいなところがあるのですが、子どもには英語を通じて、自由に楽しい世界を見せてあげたいものです。

ぜひ、ご自分の好きな英語の歌をくちずさんだり、お気に入りの映画を見たり、お子さんと一緒に楽しい英語の時間を過ごしていただければと思います。

また、お子さんが大きくなるにつれて、そしてあなたの環境の変化など、いろいろと忙しくなる時期もあるでしょうが、何とか続けるサポートをしてあげることが将来の大きな成果を得ることになります。

そして、**その頑張りが将来、お子さんから「ありがとう」と心から感謝をされる**ことにも繋がります。

ですので、楽しみながら肩の力を抜きながら、お子さんの日々の成長を長い目で見守って頂けると良いのかと思います。

もしバイリンガル教育に行き詰まったり、悩んでしまったら、一人で悩まずに私にご相談頂ければ嬉しいです。お力になれるはずです。

## 【問い合わせ】

<https://www.kids-island.biz/contact/contact/>

メール：[info@kids-island.biz](mailto:info@kids-island.biz)

再度にはなりますが、ここまでお読み頂きありがとうございました。

キッズアイランド代表  
堺谷武志（さかいたに・たけし）

## 【堺谷武志の略歴】

京都大学工学部、南カリフォルニア大学MBA（経営学修士）、保育士  
都市銀行（現三菱UFJ銀行）でシンガポール駐在を経て、本部にて国際ビジネス（アジア戦略立案、海外金融機関買収など）に従事。

2006年自然と人にふれあうプリスクール「キッズアイランド」を設立、13年間で1,200名超の子どもとふれあう。

2019年NPO法人ソダチバ・プロジェクトを教育起業家仲間と立上げ、新たな選択肢「HILLOCKバイリンガルキンダースクール」を創設。

近い将来「HILLOCK小学校」創設計画あり。

プライベート：妻と一人娘の手下、週末登山と再結成したバンド活動の活発化が課題、チカラ強さはゼロだが拳法有段者でもある。

## 【キッズアイランドの”5つ”の特徴】

### ①プログラム

全米有数のカリキュラムをベースにした質の高いプログラムを提供いたします。Outdoor, Art & Crafts, Music & Movement, Game, Storyなど多様な体験にチャレンジ！

### ②アウトドア

駒沢公園、砧公園、林試の森公園で自然を感じながら、外遊びをすることで体力と感性が磨かれます。

### **③少人数制**

ひとりひとりへの語りかけを重視し、成長過程や個性にあったサポートを行います。バイリンガル保育士または幼稚園教諭がサポートをする安心体制です。

### **④英語の先生**

外国人ティーチャーが全てのクラスを運営、自然な流れで英語力や国際感覚を身につけていきます。

### **⑤安全・衛生面**

ゆったりとした部屋、安全で質の高い遊具など、ハード・ソフト面とも安全や衛生面には細心の注意を払っています。

キッズアイランドのHPはこちら：

<https://www.kids-island.biz/>